

ヨーロッパから医師団が来校 ～東洋医学を通して交流を深めました～

森ノ宮医療学園専門学校鍼灸学科教員 小林章子

去る平成20年10月5日(日)に、ヨーロッパの医師団18名が森ノ宮医療大学に来校されました。一行はドイツ、オーストリア、オランダの産婦人科医と助産師の方々と、ドイツにある「プロメディコ」という組織で鍼灸を学ばれています。今回はセイリン株式会社主催のツアーで来日され、その一環として森ノ宮医療学園はりきゅうミュージアムの見学、森ノ宮医療大学見学が組み込まれました。

はりきゅうミュージアムでは3時間以上もかけてひとつひとつの展示物を熱心に見入っておられました。なかでも、展示されている『医心方』22巻には妊婦と経絡との関係などが記載されており、一行が婦人科医と助産師の先生方ということもあって特に興味深く時間をかけて見学されていたのが印象的でした。

森ノ宮医療大学では、「プロメディコ」の創設者でもあるルーマー医師によって、ドイツの産婦人科における鍼灸治療の現状などが講演され、日本語が堪能なドイツ人鍼灸師のゲラ



ルド先生によって同時通訳されました。また日本からは笹岡知子先生が日本における産婦人科鍼灸の研究の現状について発表されるなど、学术交流が行われました。最後は実技室にて日独のはり・きゅう施術の披露会となり、直接皮膚上でもぐさを燃やす日本のきゅう施術などを積極的に体験されました。

夜は「申揚げ」を中心としたメニューの夕食会が開催されましたが、偶然その日はルーマー医師の誕生日ということで、バースデイケーキが登場するというサプライズもあり、和やかで充実した時間を共有し、互いに交流を深めることができました。

森ノ宮医療大学第二校地いよいよ工事完了

森ノ宮医療大学総務室参事 西堀文雄

春風薫る季節となりました。

昨年11月末に取得した森ノ宮医療大学第二校地(仮称)の整備がいよいよ完了しました。

第二校地は、大学校舎から咲洲キャナルをはさんで南側に位置し、面積は8,311.43㎡です。南北の敷地を合わせて約16,000㎡(約4847坪)となり、大学校地としての広さと機能がいっそう備わることとなります。

第二校地は、開発コンセプトとして、コスモスクエア駅周辺の都市環境の改善に寄与し、南港地区の魅力アップに貢献することを掲げています。そのコンセプトを実現する取り組みの一つとして、三方を修景帯(緑地帯)で囲み、運河に面する北側も将来、植樹する予定です。これにより四季を通して、美しい木々や草花が咲きほこる楽しい広場が創設されることとなります。

東側近隣のマンション・シーサイドレジデンスも完成し、住民の人々も入居を開始しています。コスモスクエア駅近隣地区はますます街として充実しようとしています。5月には学生のみなさんのキャッチボールやサッカーボールを蹴る姿、またウォーキングやラン

ニング姿が見られそうです。

学生達の憩いの場として、また地域住民の皆さんにとって緑のなかのゆとりと寛ぎのスペースとして十分に利用されることを期待しています。

